NEW
株式会社インプレスR&D
インターネットメディア総合研究所が6～7月にかけて実施た出版社へのアンケート調査の結果が発表された。それによると、今後もっとも力を入れていきたい電子書籍の販売チャネルは、なんと「アマゾンKindle」になった。黒船と恐れているにもかかわらず、やはりアマゾンが上陸したら「やるしかない」と思っているようだ。次いで、7月19日にサービスを開始した楽天の「kobo」、大日本印刷の「honto」となっている。

今後もっとも力を入れていきたい電子書籍の販売チャネル

1位　Amazon Kindle　60%（13%）
2位　楽天kobo　57%（4%）
3位　honto　42%（66%）
4位　App Store　38%（64%）
4位　紀伊國屋BookWebPlus　38%（53%）
6位　iBook store　30%（0%）
7位　BookLive!　28%（49%）
7位　Google Play（旧Android Market）　28%（17%）
9位　eBookJapan　21%（32%）
9位　Google ebookstore　21%（2%）
注）カッコ内はすでに取り組んでいる割合

では、実際、どんなジャンルの本が電子書籍化されているかという、以下のようになっている。ビジネス（＋5%）、文芸小説（＋4%）などが、昨年より伸びているが、微増にすぎない。

今年もっとも多く電子書籍化した書籍のジャンル

1位　趣味・実用・ガイド　47%（51%）
2位　ビジネス　42%（37%）
3位　その他　38%（27%）
4位　コミック　34%（31%）
5位　文芸小説　28%（24%）
6位　エッセイ・論評　26%（29%）

7位　ノンフィクション　　21%（29%）
8位　写真集　17%（20%）
9位　語学・資格・検定・教育　　15%（20%）
10位　ライトノベル　　13%（12%）
10位　アダルト・官能小説　　13%（24%）
10位　趣味専門雑誌　　13%（12%）
注）カッコ内は 2011年のデータ